

自社オフィス執務室及びリフレッシュ スペースにおけるリユースカップ導入

実施報告書

2026年1月29日

リユースカップ利用促進について

オフィスリフレッシュスペースに、コーヒーマシンやティーサーバー（給茶機）にて使用可能なリユースカップを導入しました。これにより、お水・お茶・コーヒーなどのペットボトル飲料の利用削減や環境負荷の軽減にも貢献します。また、リユースカップの回収・洗浄^{*}も契約済みです。

^{*}1市川環境の回収洗浄サービスを利用しております。



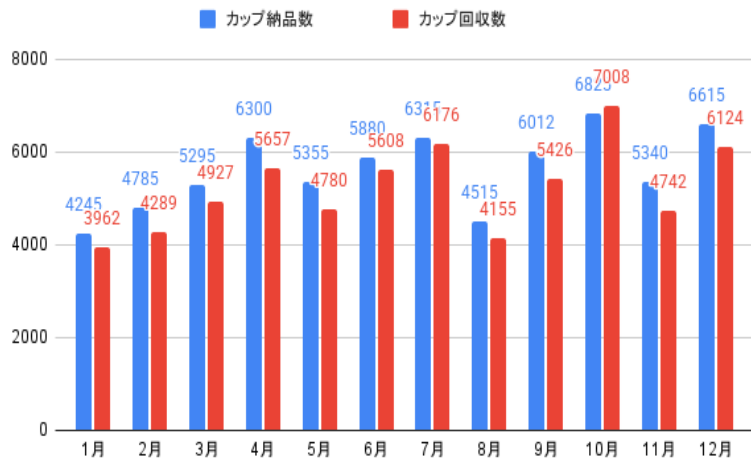
リユースカップの設置

給茶機付近にリユースカップを常備し、水やお茶、コーヒーといった日常的な飲料からペットボトル利用の廃止を推進しております。こうした「利用頻度の高い領域」から優先的にリユース化を定着させることで、従業員の環境配慮行動を日常のルーティンへと組み込みます。この習慣化のプロセスを通じて、組織全体におけるサーキュラーエコノミーへの意識改革を加速させてまいります。

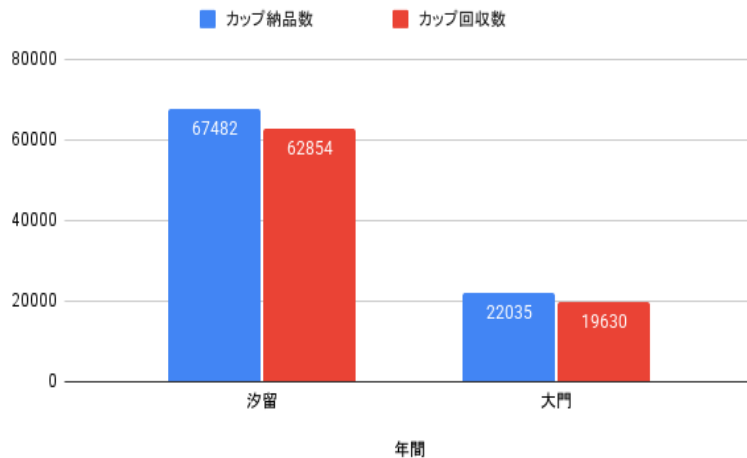
年間利用数の推移

2025年1月から12月までの年間利用数の推移をご報告します。リユースカップの利用は継続的に確認され、平均利用数は5,515個（注釈1）で安定して推移しました。ただし、ゴールデンウィークやお盆休みなどの長期休暇が重なった5月と8月は利用数が減少しています。一方、10月には回収数が7,000個を超えるなど、利用が増加した月もありました。

年間カップ納品数・回収数



年間のカップ納品数・回収数



リユースカップ導入年度の成果

リユースカップ利用推進によるペットボトルの削減効果（1年間）

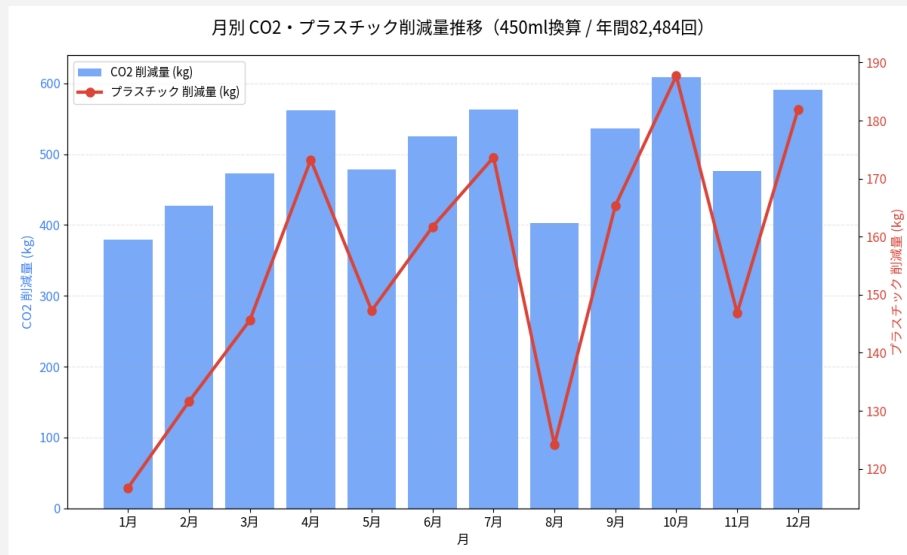
導入拠点数：2拠点

利用者数：424名

ペットボトル削減量：
1,855.89kg[約1.86トン](注釈2)

CO₂削減量：6,021,332g（約6.0
トン(注釈3)

※年間で約1.86トンのプラスチック削減、および杉の木約430本分のCO₂削減に相当します。
(注釈4)



リユースカップ導入成果の算出根拠および注釈

注釈1：利用状況の集計について

月平均の算出：リユースカップ事業所からの納品データ1年間の合計値（66,182個）を12ヶ月で割り、小数点以下を四捨五入して月平均5,515個を算出しています。

注釈2：プラスチック削減量について

算出方法：リユースカップを使用しなかった場合に消費されていた「使い捨て容器」の重量として算出しています。

設定係数：450mlサイズのPETカップ/ボトル相当の重量として、22.5g/回を採用しています。

計算式：年間利用数82,484回×22.5g=1,855.89kg（約1.86トン）。

注釈3：CO₂削減量について

算出方法：容器のライフサイクル（製造・輸送・洗浄・廃棄）における「使い捨て容器」と「リユース容器」の排出差分より算出しています。

設定係数：1回利用あたりの削減効果を、73g-CO₂と設定しています。

計算式：年間総利用数82,484回×73g=6,021,332g（約6.0トン）。

注釈4：環境への換算指標

杉の木換算：杉の木1本あたりの年間CO₂吸収量を14kgとして計算（環境省等の公開データを参照）。

計算式：6,021kg÷14kg/本=約430本分。

高さ換算：500mlペットボトル（高さ21cm）を縦に積み上げた場合で計算。

計算式：82,484本×0.21m=17,321m（富士山約4.6倍）。

リユースカップ導入による課題と改善策、**次年度の取り組みについて**

問題点と課題

- リユースカップの誤った廃棄（ゴミ箱への投棄）が見られる。
- 使用後に専用回収BOXに戻さず、給湯室などに置きっぱなしにされることがある。

対応と改善状況

- 継続的なアプローチ：直接の声掛けによる意識付け
- 機動的な対応：課題発生時、ビジネスチャットで即座に注意喚起
- 成果：不適切行動の発生頻度は着実に減少

次年度の取り組みについて

- **日本法人のブランディング変更に伴い、本年度はオリジナルカップを導入し、より環境に配慮した企業活動を推進してまいります。**